

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立巽小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は、概ね妥当である。

感染症の影響もなくなり、地域・PTAと協力して、学校行事や地域行事を行うことができて、よかった。教職員が苦労・工夫して、子どもたちのために頑張っていることがよく理解できた。

今後も、学校協議会も協力しながら、学校・PTA・地域が連携して、学校行事や地域行事、学校運営に参画していくようにする。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通・学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を77%以上にする。(R4 74.1% R5 76.4% R6 81.2%)
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。(R5 76.2% R6 84.9%)
- 児童アンケートにおける「学校に行くのが楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。(R5 88% R6 86.3%)
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。(R5 89.6% R6 90.5%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 「いじめアンケート」を計画的に行い、認知した事案については児童への聞き取り、すみやかに指導、対応することができた。生活指導部会、児童に関する情報交換の場で共有し、学校全体で指導にあたることができています。また、道徳参観において、いじめに関わる項目に関する学習を全校で行った。

【「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 R6 88.5%】

- ② 学年・学級での活動や、異学年交流であるペア集会・異フェスティバルなどの児童が楽しみにしている活動を実施することができた。また、6年生による1年生への給食、清掃補助、1、2年生で学校探検、チューリップの球根植え、ペア遠足など複数学年での学習の機会を増やすことができた。さらに、2、3月には4年生の地域とのふれあい行事を行うことも予定している。

【「学校に行くのが楽しいですか」 R6 86.3%】

- ③ 対話を意識した活動を取り入れる授業づくりを行うとともに、各学年の発達段階に応じて、「本日のMVP」「今日のキラキラさん」などの名称で児童が相互にその日の頑張りを認め合ったり、休

み時間の「みんな遊び」に取り組んだりしてきた。それらの取り組みを通し、自他の特徴を素直に受け止める素地が養われてきた。その結果、学力経年調査では8割近くの児童が「自分にはよいところがある」と回答した。

【「自分にはよいところがある」R6 84.9%】

年度目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通・学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R3 30.9% R4 41.6% R5 39.4% R6 40.1%)
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「国語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を同一母集団で前年度より上昇させる。(R5 3年73.3% 4年78.5% 5年57.6% 6年62.3%)
(R6 3年72.5% 4年68.5%↓ 5年80.4%↑ 6年51.5%↓)
- 健康週間を通して、基本的な生活習慣の意識を高める。(R4 睡眠72% 朝食96%) (R5 睡眠80.5% 朝食92%)
(R6 睡眠76% 朝食88%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 授業研究で国語科の研究が深まった。経年調査の結果、標準化得点のポイントが4年94.1→96.0 5年98.8→98.5 6年96.7→96.7と5, 6年は目標を達成できなかったが、市平均に近い結果を出すことができた。
- ② 毎週金曜日のイングリッシュタイムで放送での呼びかけやC-NETの先生との連携もあり、児童が楽しい雰囲気外国語に触れることができています。また低学年の英語の時間にC-NETの先生に入ってもらいゲームや簡単なアクティビティを取り入れた授業を実践することができた。(3学期は二回)ただ、高学年は苦手意識があったり、中学校の英語とのちがいを心配したり、苦手意識を感じている児童もいる。
- ③ ソフトボール投げの記録の伸びは0.93mで目標は達成できなかった。全校的な取り組みを行う必要があるのではないかな。
- ④ 学校アンケートは76%で目標は達成できなかった。児童は、睡眠の大切さを分かっているものの、実際の活動には結びついていない。

年度目標

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通・学校園の年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(R5 1% (全体の活用率は42.3%)) (R6 73.6%)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。(R6 96%)
- 児童アンケートにおける「学校生活で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 前期76% 後期84%) (R6 89%)
- 毎週金曜日に「ゆとりの日」または「ノー残業デー」を設定する。学校閉庁日については、夏季休

業期間中は5日以上、冬季休業中は5日以上設定する。(R5 夏5回 冬5回) (R6 夏5回 冬5回)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 7月以降、端末活用率は80%以上を維持している。担任の声掛けにより、児童の意識が定着してきた。児童アンケート結果も87%（10月）から89%（1月）に上がっており、定着の結果がうかがえる。
研修会は合計5回行った。現時点の教職員のスキルに応じての研修会を行うことで、授業にすぐ生かすことができた。
- ② 学校閉庁日は、誰もが気がねなく休暇がとれる仕組みであるが、長期休業日中の出勤のばらつきを考慮し、個々のニーズに合った出勤方法を考えていく必要がある。「ゆとりの日」「ノー残業デー」は、職員室前黒板へ掲示することで、十分ではないが教職員の意識付けにつながりつつある。「働き方改革」の意義の理解が十分でない。年次有給休暇を10日以上取得している教職員の割合は、現在24人中23人（95.8%）である。

3. 今後の学校運営についての意見

以前のような感染症の心配がなくなり、今後も、必要な学校行事は形を変えながらも復活させ、実施内容を改善した行事は質を落とさないように、子どもたちの最善を考えて実施していく。

また、昨年度から地域との交流も少しずつ再開し始め、地域とともに学び、育つ子どもたちの笑顔がみられるようになった。今後も、地域との連携をさらに充実させ、引き続き、活気ある地域・学校づくりに尽力する。